



マッターホルン登頂記

2013年7月22日～23日

マッターホルンの麓の町 ツェルマット



※表紙と、この写真はクリスマスシーズンに行った時の写真です

ツェルマットはスイスの山岳リゾートの町です。町の規模はシャモニーよりは小さいです。こじんまりとしており、また、ガソリン自動車は入ることができないので、観光客で賑わいはありますが、騒がしいことはありません。ここに来る人のお目当てはマッターホルン。街中からもマッターホルンを見ることができます。初めてその姿を見ると、その圧倒的な姿に驚きます（想像以上に大きく、迫力があります）。ここにもゴルナーグラードやグレイシャーパラダイス等の展望台が多数あり、何日でも楽しめます（約1週間滞在）。レストランやスーパーも充実していますが、物価が高いのと、それ程美味しい料理が無いのが残念です。鉄道やロープウェイの価格も高いので、半額パスを購入する等工夫が必要です。

マッターホルン(4478m)登頂のルート



マッターホルンはヨーロッパアルプスのシンボリックな山。今回はガイド登山での挑戦です。4500m程ある標高、独立峰のため変わりやすい天気、山歩きの部分はほとんどなく、ほとんどの行程が岩登りであること、落石が多いこと、スピードが求められること(遅ければ中止)等の要素が登頂を困難にします。岩登りのため、脚力だけでなく、腕力等の全身の力が求められます(もちろん楽に登れる「梯子」はありません)。また、登山開始から下山までずっと緊張を強いられる場面が続くのでメンタル面の強さも必要です。

マッターホルン登頂の行程

7月22日

5:00頃 起床

←2週間毎日5時前に起きるストイックな旅(全ては登頂のため)

10:00頃 シュバルツゼーへ移動

10:30頃 シュバルツゼー(2583m)着

10:50頃 シュバルツゼー駅出発
(登山開始)

13:00頃 ヘルンリ小屋(3260m)到着

19:00 夕食

21:00 消灯

←いびきをかくのは日本人だけ?と思うくらい静かで、ぐっすり寝られました。

7月23日

2:30 起床

←できるだけたくさん食べるようにしました。酸っぱいアセロラティーの味を思い出します。

2:50 ヘルンリ小屋出発

5:00頃 ソルベイ避難小屋(4003m)通過

6:50頃 頂上(4478m)!!

7:00頃 下山開始

9:50頃 ヘルンリ小屋裏まで下山
(写真撮影、祝杯等)

11:00 ヘルンリ小屋出発

13:00頃 シュバルツゼー着

13:30頃 ツェルマット着

↑色々な人から「おめでとう」と声をかけられて嬉しかったです。

※登頂時はプッシュし続け、当日のトップ登頂でした。

前日7月21日はブライトホルン(4164m)にソロで登頂しました。

モンブラン登頂や、連日の高所ハイキングで高度順応は完璧でした。

前日の高度順応登山　　ブライトホルン(4164m)



モンブラン登頂から、毎日高地ハイキングをしているので、高度順応はばっちりです！
ここブライトホルンはアクセスし易い4000m峰です。もちろん絶景を楽しめます。
後ろには雲に隠れながら、マッターホルンが見えています。この山だけでも来る価値があります。高度順応ができれば、冬の石鎚を登れる人であれば登れると思います。

アタック時の装備

ウェア： コンフォートジップT・ソフトシェルパンツ（マムート）
インナー： ノースリーブシャツ・ボクサーパンツ（クラフト）
ヘッドウェア： ロックライダーヘルメット（マムート）
ライト： Tーサミット（マムート）
ザック： トリオンガイド35ℓ（マムート）
グローブ： フルフィンガー レザー補強のグローブ
ブーツ： バツーラ2.0（スポルティバ）
ピッケル： なし
クランポン： ペツル 12爪
サポートタイツ・アームカバー： C3fit
靴下： 比較的薄めのスマートウール

その他： プラティパス、サングラス、スント時計、行動食

控え（アタック時はザックの中）

アルバロンJKT（マムート）

フリース（マムート）



ヨーロッパでもマムート、アークテリクスが人気でした！私はマムーター（マムート好き）なのでこの装備となっています。

靴はスポルティバ、スカルパを履いている人が多いです。私みたいにゲイターブーツを履いている人もいました（最高に履きやすい靴でした）。



※この日はコンディションが良かったため薄着でのアタックでした。

マッターホルンはスピードが求められるため軽量装備で望みます。

山岳ガイド



Youのニックネームは
Shin-kan-senだ！

と冗談を言っていました。
(登頂後に)

ヨハネスさん(ドイツ人 31歳)

身長が190センチくらいあり、手の大きさも私よりふた周りくらい大きかったです。技術はもちろん、体力、パワーもあり、頼れるガイドでした。無口ですが、真面目で、次もアルプス挑戦の機会があれば依頼したいと思います。ガイドはツェルマットのアルパインセンターで手配し、約13万円くらいです。他に宿泊費、飲み物代、チップ等が他に必要です。

シュバルツゼー駅～ヘルンリ小屋



ヘルンリ小屋まではハイキングコースを登ります。ハイキング客も多数います。この日はマッターホルンはもちろん、モンテローザ等の山々もばっちり見ることができました。途中、絶景を見ながら、持ってきたランチを食べたり、ゆっくり景色を見ながら登ります。汗をかきたくないため、ゆっくりペースで登りました。

ヘルンリ小屋(3260m)



ヘルンリ小屋はマッターホルンのベースキャンプになっている小屋です。

ここのご主人はグレートサミッツでも登場したクルトさんです。日本から来たこと、クルトさんに会えて嬉しいということ伝えて、一緒に写真を取らせてもらいました。この小屋でもスープ、メイン、デザートのコースです。この日のメインは豚のロースト御飯添えでした。ゲーテ小屋(モンブラン)でも、ヘルンリ小屋でもメインにお米が添えられて出てきたのでラッキーでした。

現在改装中で、来年は一時閉鎖、再来年に新しい小屋が完成するとのことです。

ヘルンリ小屋から見上げるマッターホルン



ヘルンリ小屋に到着後、翌日の下見も兼ねて少し登ってみます。取り付きからFIXロープがあり、登りにくくなっています。アタック時は真っ暗での登りですので、一度登っておいて良かったです。下から見上げた時の迫力は万点です。登れる気がしません・・・w

ヘルンリ小屋からのモンテローザ



ヘルンリ小屋からの眺めは本当に素晴らしいです。

モンテローザ～ブライトホルン、ダンブランシュ、ヴァイスホルンにドームそして背後にマッターホルンが見渡せます。ハイキングだけでも行く価値はあります。

この写真は小雨の後モンテローザ方面を撮った写真です。ちょうど写真の真ん中辺りに写っていますが、不思議な雲が出ました。十字架の雲ということで、縁起が良いはず！

ヘルンリ小屋～ソルベイ避難小屋(4003m)



ソルベイ避難小屋からの写真



ルートはこんな感じです

ヘルンリ小屋の出発は競争そのものです。

小屋の掟として、「2時30分起床」というのがあり、起床後に大急ぎで準備し、朝食をできるだけ早く食べ、玄関に並びます。競争する理由は、1番に出発したいからです。落石の危険を減らしたり、ロープの支点の確保が確実にできる等、1番で登ることは安全上とても有利です。また、途中で前のペアを抜く際には明らかなペース差がないと抜けないので、スタート位置はとても重要です(F1みたいですね)。

私も大急ぎで準備し、4組目のスタートでした。スタート後どんどんプッシュし、約1時間後にトップに立ちました。そこからもペースを緩めず、スタートから2時間でソルベイ避難小屋を通過しました。

ほぼ中間地点であるソルベイ避難小屋まで、3～4時間で到着できないと引き返す判断をされるそうです。

アルプスではスピード＝安全と言われており、私自身も同じ考えです。

ソルベイ避難小屋～マッターホルンの肩



エルク仕様のヘルメットもいい感じです



ひたすら岩を登ります。この辺りは4000mを超えるものの雪はほとんどありません。
マッターホルンの頭が朝日で赤くなってきました。
この辺りではガイドがカメラを預かってくれ、写真を撮ってくれています。
立ち止まって写真撮影を行っている暇はないので助かります。

マッターホルンの肩～頂上



この辺りのFIXロープは凍っています。

マッターホルンの肩の辺りでクランポンを付けます。
ガイドとの打ち合わせで二人ともピッケルは持ちません。
確実にステップを決めて登ります。転ぶと…たぶん、まずい状況になるでしょう。
下を見ると1000m以上スッパリと切れ落ちていますが、麻痺してくるのか、怖いとは感じません。
FIXロープも出てきます。結構腕の力を使うので、続けてきた上半身トレーニングの成果が出ました。

マッターホルン頂上(4478m)



「最高！」という言葉しかありません。後ろに登ってくるペア達が見えます。

頂上にて



快晴でモンブランも見えています(左奥)。
モンブラン登頂に続き、最高の天気に恵まれて感謝です。
天気だけは選ぶことができませんから。。

頂上にてガイドと



後から到着したガイドが写真を撮ってくれました。
一緒に登ったガイド ヨハネスと記念撮影です。到着した人たちと祝福し合います。

聖ベルナル像



頂上直下には聖ベルナルの像があります。
登山者を守ってくれる神様とのことです。休憩する時のロープの支点にもなってくれていますw

下山中



下山は垂直で降ろしてくれるところもあり、登りよりは楽です。
でも、下を見ながらの行動なので崖っぷち度は増します。
足を踏み外さないように慎重に下ります。写真ではヘルンリ稜が右上にまっすぐ伸びています。



右側にソルベイ避難小屋が見えています。
少しずつ頂上に雲が発生しています。この後1時間程で頂上は隠れてしまいました。
そういう意味でもアルプスではスピードは大切だなと思いました。



どんどん岩場を下ります。この辺りでも登っているペアとすれ違います。
最後に下山する人はヘルンリ小屋に17時くらいに着らしいです。

無事下山



緊張が続いた下山が終了し、ヘルンリ小屋でコーラで乾杯しました。疲れたせいかわ、ビールよりも、甘いコーラが飲みたいと感じました。今までで一番うまいコーラでした。景色も眩しすぎるほど綺麗です。

おわり



登頂の翌日からハイキング開始です。

遠征していた2週間は雨もなく、ほとんど毎日歩き回っていました。

この日は始発のロープウェイに乗ってオーバーロートホルン(3415m)に向かいます。

駅からは30分～1時間程登って到着。登頂後はこの景色を独り占めです。

(エルク隊で行ってみたいなと思いながら登っていました。)

今回はモンブラン、マッターホルンの登頂を始め、とても恵まれた遠征となりました。